

こどもL.E.C. センターと分教室

今回は、益城町古閑 73 番地にある「こどもL.E.C. センター」を訪問し、白鳥 哲施設長からお話をうかがいました。

問題改善のため 職員と寝食を共に

こどもL.E.C. センター（以下、センター）は、心身の不調などで学校に行けない児童や虐待を受けて心に深い傷を負った児童をはじめ、さまざまな原因で集団生活が難しい児童を治療するための児童福祉施設として、平成13年4月に開設された児童心理療育施設（情緒障がい児短期治療施設）です。

入所部門では6歳から18歳までの児童が施設の中で、保育士・児童指導員・心理療法師など約30人の職員と寝食を共にしながら、それぞれの抱えている問題を改善するために生活しています。

通所部門では主に学校に馴染めない児童が家庭から通って、職員や他の児童との交流を通して問題の改善を目指し



施設の全景

ています。センターを利用する児童は、すべて児童相談所からの委託で入ってきますので、児童の生活や教育などにかかる費用は公費でまかなわれており、センターは公的な施設ということが出来ます。

今年の4月にセンターに分教室が設置されました。これまでも益城中学校からは1人の先生が来られていましたが、町教育委員会をはじめ多くの関係者のご理解とご支援のお

本校への登校を目指し 分教室で助け合い学習

4月中は、じつと座っていることができなかった小学生も、先生たちの指導のおかげで、現在は授業開始のチャイムで自分の席について学習をすることができるようになっています。

子どもたちはそれぞれ本校で学習しています。

かげで、広安西小学校と益城中学校からそれぞれ2人の先生が来られて、3教室を使って子どもたちに授業をしていただいています。

4月の始業式の時点では4人であった小学生も現在は8人になり、中学生は入れ替わりはありましたが、現在9人が分教室で学習しています。



分教室で授業を受ける子どもたち

に交流学級を持っていますので、子どもたちは分教室での学習のほかに、本校の図書室やパソコン室で学習したり、本校の子どもたちと一緒に運動会などの行事や見学旅行などにも参加しています。

子どもたちは本校への登校を目指して、分教室で互いに助け合って学習しています。